

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立大新小学校
校長氏名	村上 和彌
作成日	令和 3年 2月 12日

1 教育目標

豊かな情操とまろやかな英知を育み、たくましく生きる子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査において、国語・算数ともに県平均並みの結果を目指す。 ・児童アンケートの「私は毎日の勉強がわかる」の項目で「あまりそう思わない」10%	・児童アンケートの「私は学校が楽しい」の項目で「思わない、あまりそう思わない」5% ・保護者アンケートの「生命の大切さや社会のルールを守る態度の教育」の項目で「そう思う」40%	・保健室が実施する元気大作戦(生活アンケート)で、運動や体を動かす遊びの達成率90% ・生活アンケートで起床、就寝時刻を守る達成率80%	・保護者アンケートの「学校の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で「そう思う」40% ・地域や公民館などと連携した取り組みを、各学年1つ以上実施する。
重点目標 【P】	・様々な形での話し合い活動、自分の考えや授業のまとめを書く活動を意識的に取り入れる。 ・図書室の開放、読み聞かせなどを通して、本に親しむ態度を身につけさせる。	・子どもたちが互いに協力し、思いやりの気持ちをもってなかよし活動を進めていく。 ・市教育委員会の客員指導主事を講師に招聘し、道徳の提案授業を通して研究を深める。	・なかよし活動を通して、継続的に体を動かす取り組みを行う。 ・養護教諭を中心に、アンケートや保健活動を軸に、健康への意識を高める指導に取り組む。	・月に一回以上のホームページの更新を行う。 ・運営協議会委員の大新地区公民館長さんに協力をお願いし、公民館教室の体験を全学年で実施する。
取組の状況 【D】	・1対1、少人数でのグループ、クラス全体など様々な形での話し合い活動を通して、自分の意見を出したり、友達と意見交換をして高め合ったりすることができた。 ・委員会による図書室の開放、集会活動や外部講師を招聘しての読み聞かせの会などを通して、本に親しむ機会を多く設けることができた。	・毎日のなかよし活動、運動会や赤十字奉仕活動などを通して、お互いに協力したり、相手を思いやりたりする気持ちを醸成することができた。 ・11月に本校スクールカウンセラーによる「子どものストレスマネジメント」の講演会、指導主事を招聘して道徳の研究授業を実施することができた。	・なかよし活動で、マラソンと長縄跳び、また児童がグループで話し合っただけで決めた外遊びなどに年間を通して取り組むことができた。 ・校内放送や保健だより、直接の保健指導などを通して、児童や保護者に健康に関する啓発を行うことができた。	・2、3、5、6年生で公民館活動を実施することができた。また、外部講師による大新太鼓の指導や各種教室を数多く実施することができた。 ・地域の方との交流ができなかったことで、手紙や寄せ書きをつくり、届けることで感謝の気持ちを伝えることができた。
取組の成果と課題 (評価)	・県学習到達度調査は、4・5年生ともに県平均を上回ることができた。しかし「私は毎日の勉強がわかる」の項目で「あまりそう思わない」児童が9%いた。低学力や理解が進んでいない児童に対する個別の支援を更に充実させる必要である。	・「私は学校が楽しい」の項目で「思わない、あまりそう思わない」が7%であった。楽しく感じない要因をとらえ、少しでも改善していきたい。 ・「生命の大切さや社会のルールを守る態度の教育」で「そう思う」が23%であった。「まあそう思う」が65%だったので、もう一歩踏み込んだ取り組みをしていきたい。	・元気大作戦で、運動や体を動かす遊びの達成率が9月では90%に届かなかったが1月では改善した。昨年に比べ、冬季でも外遊びを楽しむ傾向が伺える。 ・就寝時刻は改善傾向にあり、それに伴って睡眠時間の達成率が上がっている。テレビやゲームの時間と関連させながら継続して指導をしていきたい。	・「学校の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で「そう思う」は23%であった。「まあそう思う」が63%の評価をいただいたので、もう少し工夫した発信が必要である。
改善方法 【A】	・毎日の積み重ねを大切にできるように、宿題を確実に仕上げたり、授業の課題を積み残したりしないように指導をしていく。また個別の課題や理解の程度に沿った指導を考えていく。	・楽しいと感じてもらえるような学校を目指し、より子どもに寄り添った対応や声掛けを行う。 ・指導が必要な場面(即座)に対応するとともに、関連する教材で学習をし深め、子どもの人権意識を高める取り組みを進める。	・体力や健康への意識を定着させるために、取り組みを継続していくとともに、家庭での生活習慣について保護者への啓発を更に進め、連携して取り組みを行っていく。	・学校だけでなく、日頃の子どもの様子や出来事などについて積極的に発信できるようにしていく。

3 その他の課題

コロナ禍の影響で、授業参観や懇談会をほとんど開くことができなかつたり、各種行事が取りやめになったり制限をつけての実施になったりと、家庭と連携をしながら学校運営を進めていくことができなかつた。音楽会や地域の方との交流、感謝の集会などは地域との連携につながり、またどれも子どもたちにとって有意義な取り組みである。来年度は可能な限り、より多くの方に来校していただけるように考えながら取り組みを進めていきたい。